





大学院生・進学予定者向け

キャリアパス支援説明会

~阪公大学大学院での学修支援・経済支援・就職支援~

2022年12月15日

大阪公立大学 高度人材育成推進センター

博士課程学生の支援制度・支援プログラムの内容

大学院生には幅広く・手厚い支援制度が数多くある。

キャリアパス開拓・形成支援

・キャリア形成関連授業 (イノベーション創出型研究者養成など)

- ・トランスファラブルスキル教育
- ・アントレプレナーシップ教育
- ・スタートアップ支援
- ・イノベーション教育
- ・長期インターンシップ支援
- ・企業とのインタラクティブマッチング
- ・メンター制度
- ・グローバルリーダー育成 留学支援制度 (つばさ基金海外留学支援など) 若手研究者海外チャレンジ事業

産学協働イノベーション人材育成協議会(C-ENGINE) 文科省 ジョブ型研究インターンシップ推進協議会

研究力強化支援

- ・高度研究人材の育成
- ・研究専念のための経済的支援
- ・国内外留学支援
- ・国際会議参加支援
- ・研究ネットワーク構築支援

フェローシップ創設事業プログラム次世代研究者挑戦的研究プログラム

日本学術振興会特別研究員

人材育成支援

大学院リーディングプログラム

キャリア教育について

(1)・イノペーションの必要性 国家戦略の中での大学)	15期00分、以ホールに於いて 博士後期課理学生を対象に TECカリキュラム受職オリエンテーションを受施		
- 高度人村育成の役割	高度人材育成センター 4月1 松井、浜田 ※本パンフレットを持参	日(火	
ソーシャルストーリーを思ろう ※ ドイノベーション人材 つ 事業創造人材 I になるための事務 ~	リクルートワークス研究所 主幹研究員 4月1 豊田義弘 氏	7E(%	
※・アントレブレナーシップと記集の魅力	大阪府立大学科観教授 元 関日立製作所 CVC室書 4月2 広載 正 丘	相(火	

æ ik	章における研究者への期待企業階略と研究開発企業の期待する技術者	大阪府立大学特徴教授 元 パナソニック機 常務役員 節田 正明	5月8日(火)
0)	東化のための研究開発マネジメント ・テーママネージメント (研究開発テーマの発展と教定:進捗管理) ・事業化のプロセス	バナソニック機 大阪府立大学科総教授 河北 智郎	5月15日(米)
0	品開発者に必要な倫理と知識 ・簡明智能理とコンプライアンス ・ライフサイクルアセスメント、リスケマネージメント ・品質(基)と品質管理	元 花王(総)基連科学研究所要 (一校)対策計学協会・科学技術アドバイザー 辻井賞 氏	5月22日(火)
B	構者が知って志くべき知的財産 ・ 田内取匿とは? ・ 場計 - 未来を捉える場合 ・ 書作権 - 場所とどう着う? ・ 不正顧参加止法 - 技術高は阻止の側面から	野河助計事務所 副所員 所理士 初本度 氏	5月29日(火)
* F	ジネス企画と研究企画 ・ビジネス企画とは ・ビジネス企画と研究企画 ・企画書の同形と準備	大阪府立大学科教教授 元 住玄金属テクノロジー機 代表取締役社長 第月 使多	6月5日(火)

3 企業研究者に必要な業後		
・企業管理者教育研修をモデルにした開展	日勤任金統明制 ピジネスソリューション部 教育事業センター 上席コンサルタント 人見 豪姫 氏	6月12日(火
66・インターンシップ報告会	TEC-II (集階インターンシップ) TEC-IV (研究リーダー集成) 修了者	6月19日(水
60・プロジェクトマネージメント基礎	脚PMI日本立廊 成松 房大 氏	6月26日(火
毎・実践プレゼン能力製化	パナソニック(株) 人材簡見カンパニー - 新規事業務別数 ロブラットフォーム推進課・	7月3日(9
ウ・ブレゼン能力強化演習	小野康氏	7月10日(94

(4)	プレゼン能力強化調整		7月10日(火
4	企業研究の成功モデル		
06	産業用液力的 マルチ大阪南システムの簡異 ~ イノペーションを生み出すコーディネートカ ~	三菱電像(株)人材開発センター 情報ソフトウェア教室 主物機能 前別機能 氏	7月17日(火
œ ·	日東放映合研究所におけるメディカル高度研究のご紹介 〜 他社にない高付加価値電品割出を目指して 〜	日惠納 執行役 統合研究所 副听着 石原 英幹 氏	7月24日(9
5	多彩なキャリアバスに向けて		
0)	・研究者のキャリアデザイン	(株) 応用社会心理学研究所 可能を使い事業が差 装 調査研究プロデューサー 八木秀春氏	7月31日(9

履修案内

議議目的

イノベーションを創出する高度研究 者に求められる素養を適切に理解し、 それを自らのものとして実践するため の能力を涵養するとともに、将来のキ ャリアを意識しそれをデザインするこ とを学びます。

産業発展の礎となるイノベーション 創出における高度研究人材の必要性、 技術経営の基礎事項を実度人材育成 センター特認教授・コーディネーター、 企業経営者・研究者・管理職教育者な どの観義を通して学びます。

企業における研究のあり方、技術経 営の必要性・重要性を理解するととも に、企業研究者に求められる素養を知 り、その能力を伸ばす方法を体得しま



高等教育推進機構 高度人材育成センター

TEC:072-254-8265 (内線2330) E-mail: jinzai@21c.osakafu-u.ac.jp

<中面舌鳥門側> A6棟3F エレベーター 高度人材 音酸センタ 312母室

博士後期課程 イノベーション劇出型研究者養成 1・11 A~H

TEC-II B MOTコンサル演習

イノベーション創出型研究者養成 | TEC-1 (ビジネス企画特別演習)

1 イノベーション製出型研究者の必要性

TEC講義(左頁)①~②を受講

2 企業研究者に必要なMOT的要素

TEC講義(左頁) ④~⑪を受講

3 ビジネス企画作成

・ビジネス企画演習の概要と進め方 8月9日(木) 218/15-17/25 A08/10-03806

-TEC指導(IV、Vコマ) ※14:35~17:45 AC練印大会整度	8月28日(火) 9月11日(火) 10月2日(火) 10月9日(火) 11月13日(火)
adelitica description de la company	

●ビジネス企画プレゼンテーション 12月11日(火) ※14/00~10/00 A12等サイエンスホール

博士前期歴程学生で TEC-II B~Hの受講希望者は 高度人材育成センターに ご相談ください

イノベーション創出型研究者養成 II A~H TEC-II (産学連携特別演習) 開催日際は、下記各項に記載

PwCコンサルティング(例) ()〜(i) e-learning 受難し結局

B~Hの開義・演習はB4様 東K1 0 2階機率

TEC-II A	MOT基礎演習	左貫 TEC 開義 ①~⑥を参照	(0~0)	た實TEC開義()~(8を受護
LECTION.	THIS I SERVICE UP THE	Salary Control State of Control o		The second secon

		マネージャー (MOT) 値ケ江 博史 氏	00-06	10月12日(金) → №~ V⊐
TEC-II C	知財稅略演習	元シャーブ(株) バイオセンシンゲシステム 研究所 変音 解析技術研究所 所書 赤木 与北部 丘	0 2 3 8 3 8 5 8	10月 4日(x) 11日(x) 18日(x) 25日(x) 11月 8日(x) 15日(x) 29日(x)

EC-II D	アイディエーション演習	R.O design studio 一級建築士・デザイナー 大原 節名	0~0	8Д	17日(金))
		(枚)タカラトミー ハイターゲット企画原 舞員 大沢 孝	0~0 0~6	8月 8月	24日(金) 31日(金)	} N~V:
		(松) プリデストン 新事業関連企画家 主等フェロー 松木 富 イノペーションマネジメント語 検験 保	Ø~®	9月	7日(金)	

TEC-II E マネジメント &マーケティング演習	大阪府立大学 エ字研究科 電気情報システム工学分群 教授 高速 和子	(C) (2) (3) (6)	10月29日(月) 11月5日(月) 11月19日(月) 11月26日(月)
	大阪経済大学経営学部 活発症 (2012年11日 15	0~0 0~0	12月 3日(月)

N VTT

	ALIVER ME	1000000	
TEC-II F ベンチャービジネス &アントレブレナーシップ基礎	150112MF86	0~0	e-learning 7月1日~9月30日間 切嫌は結び

		元(約)日立製作所 CVC整備		
TEC-II G	ベンチャービジネス演習	医测正 氏	0~0 0~0 0~6	10月10日(水) 10月24日(水) 11月7日(水)
			00~00	11月21日(水)

1	リーターシップ演習 企業管理者教育研修を モデルにした開義	日教仕金銭研集 ビジネスソリューション部 教育事業センター	0	左貫TEC議義②を受施 6月12日(火)
	リーダーシップ演習 企業管理者教育研修を モデルにしたグループワーク	上席コンサルタント 人見 療跡 圧	(2~6)	6月20日(秋) 12:55~17:15

リーダーシップ課題 プロジェクトマネージメント基礎 MPMIEA	0 0	か責 TEC 議長のを受職 6月26日(火)	
リーダーシップ連登 プロジェクトマネージメント連登	E 00~00	7月 6日(金)	



博士後期課程 イノベーション劇出研究者養成 III・IV

イノベーション創出型研究者養成 III TEC-III(企業研究特別演習)

イノベーション創出型研究者養成 IV TEC-IV (研究リーダー養成特別演習)

博士課程学生と 企業の交流

L インタラクティブ・マッチング(IM)

1 イノベーション創出型研究者の必要性 1 イノベーション創出型研究者の必要性

TEC講義①~②を受護

2 企業研究(インターンシップ調座)

(企業における生活、ビジネス・研究マナー)

・知的研究とその基準(企業における知動)。

・国内外の企業、大学における企業研究の変異

・企業研究に関する報告とダイアログ

(1)企業研究派進前課座

心事におけるマナー

・コンプライアンス

(2)企業研究實施

(3)企業研究報告会

・安全,衛生について

· 高品原伍/研究無料

TEC講義())~(3を受講

IMは、DC学生が自らの研究を 座業応用的視点を含めて専門領 域が異なる人(企業人)向けに説

明し、また同時に研究人材として 自分自身のPRを行います。 また発表者の皆さんには、異 分野の人材とのコミュニケーシ ョン能力の養成の機会として活 用する事が出来ます。

開催1.5ヶ月前に公募します。

TEC-II H30~40多型建

3 研究リーダー美成企業実習

2 企業研究者に必要な素養

・企業物学名教育等権をモデルにした開展

(1)企業研究派進前課座 企業におけるマナ

位果における生活、ビジネス・研究マナー) ・安全、衛生について

・旬色御客とその基準(企業における知動) ・リーダーの高層

・国内外の企業。大学における企業研究の実践 勝同 (研究性象/グループを企業実習/研究成業報告)

(3)ラップアップミーティング

2.企業との交流会

産学協働イノベーション人材 育成協議会と連携し、下記の企 業との交流会を開催します。 会社説明、情報交換・懇談等を 通じインターンシップを希望す る企業の探索や将来のキャリア

設計の手助けとなります。 開催日時·場所 -4月26日(木) 15時~ 終了後、企業との懇親会を予定 ・学術交流会館 多目的ホール

定員70名 https://goo.gl/LnUrBy メールでお中し込みください (先着値)

前期課程学生も参加できます。

下記企業へのインターンシップ希望者(TEC-III受講希望者も含む)は、一般社団法人産学協働イノベーション 人材育成協議会の「IDM システム」に登録し、研究インターンシップを行うことができます。 登録後高度人材育成センターにご相談ください。 http://www.c-engine.org/student/



博士課程学生の支援制度・プログラムの内容

キャリアパス開拓・形成支援

- ・キャリア形成関連授業 (イノベーション創出型研究者養成)
- ・トランスファラブルスキル教育
- ・アントレプレナーシップ教育
- ・イノベーション教育
- ・長期インターンシップ支援
- ・企業とのインタラクティブマッチング

・グローバルリーダー育成

人材育成支援

大学院リーディングプログラム

博士後期課程 対象

研究力強化支援

- ・高度研究人材の育成
- ・研究専念のための経済的支援
- ・国内外留学支援
- ・国際会議参加支援
- ・研究ネットワーク構築支援

フェローシップ創設事業プログラム次世代研究者挑戦的研究プログラム

日本学術振興会特別研究員

博士後期課程への支援プログラム

【新規】

文部科学省

「大学フェローシップ事業」

<3つのプログラムが採択>

支援対象者:111名

(3学年最大合計)

- ・量子分野(30名)
- ・マテリアル分野 (45名)
- ・スマート社会分野 (36名)

支援額:230万円/年

(内訳)

- ・200万円(研究専念費)
- ・30万円(研究費)

【新規】

日本科学技術振興機構(JST)

「次世代研究者 挑戦的研究プログラム」

「リゾーム型研究人材

育成プログラム」

支援対象者:87名程度

(3学年最大合計)

<u>支給額:220~279万円/年</u> (内訳)

- ・200万円 (研究専念費)
- ・20-79万 (研究費)

【既存】

日本学術振興会(JSPS)

「学振特別研究員事業」 (DC1、DC2)

採択実績:約60名

(3学年合計)

(年間,約20名の採用実績)

支給額:240万円/年

+研究費

(内訳)

- ・240万円(生活相当費)
- ・~100万円

(研究費 (科研費)

【既存】 大阪公立大学

「博士課程教育 リーディングプ ログラム|

支援対象:40名 (4学年最大合計)

【既存】

【新規】

②特別研究奨励金

20万円/年

新大学で、最大180名が新たに支援の対象となる

学振DC1、DC2と合わせて、在籍者の8割 約240名 (現行) が支援対象

①研究奨励金(上限35万円/年)

(博士後期課程への進学者全員が対象 *研究科毎に定める収入要件により、一部、支給対象外となる場合がある)

3学年の博士後期課程在籍者のうち約300名 (現行) が支援対象

博士後期課程 年間入学者数 約100名 (社会人、医学(臨床系)、獣医を除く)

授業料相当額

- ○価値創造の源泉である基礎研究・学術研究の卓越性と多様性を維持・強化していくため、将来を担う博士人材を戦略的に育成していくことが必要。このため、フェロー シップは、各大学が将来のイノベーション創出等を見据えてボトムアップで提案するボトムアップ型と、国がトップダウンで分野を指定する分野指定型の2タイプとする。
- ①博士後期課程学生の処遇向上(生活費相当額の支援を含む)と、
- ②キャリアパスの確保(博士課程修了後のポストへの接続)を、 全学的な戦略の下で、一体として実施する大学への新たな補助金を創設する。

ボトムアップ型:「スマート社会を牽引する共創型X-Care課題解決アーキテクト養成」

分野指定型:マテリアル分野「マテリアルイノベーションを通した国際的博士人材育成拠点の形成」

量子分野「南部・アインシュタイン フェローシップ」

支援期間:令和3年~令和9年(ただし、継続可能性あり)

	「スマート社会を牽引する 共創型X-Care課題解決アーキテクト養成」	「マテリアルイノベーションを通した 国際的博士人材育成拠点の形成」	「南部・アインシュタイン フェローシップ」
プログラムの目的	ヒューマンヘルスケア、プロダクトケア、ソーシャルシステムケアなど、人・モノ・社会・文化に対しその健康性・健全性を把握し、不健康な状態を未然に防ぐとともに、健康状態への迅速な回復を行うことを「X-Care課題」と定義し、それらを多数のステークホルダーとの共創活動により解決する仕組みをデザインする、「共創型X-Care課題解決アーキテクト」人材を養成することを目標とする。情報学を中心としつつ、自然科学・人文社会科学との連携を通じ、学際的アプローチにより社会課題を解決する能力が備わった人材を養成する。	社会的要請の高いエネルギーやヘルスケアを担う材料研究において、「ナノ科学」を基礎として革新的材料を実現する"マテリアルイノベーション"を通して、研究者としての基礎的なサイエンスと技術の素養、高い専門性、優れた創造性、国際性を具備し、自律的なキャリアデザインを実践でき、未来の科学技術を支える博士人材を育成する。	「量子」を起点に、幅広い学問領域の 知と価値観に触れ、俯瞰的視点に立ち、 既成概念にとらわれない自由な発想に 基づく新しい価値創造(パラダイムシ フト)を協創できる高度研究人材の育 成を目指す。
責 務	・ポイント制:参加、履修等により、修了必要ポイン (両分野必修) 長期インターンシップ(国内外) (マテリアル分野) 海外副指導教員の指導を研究 (スマート社会分野) 指定された情報系科目の履行 この他、指定された大学院科目の履修、イベントの	 ・指定されたセミナーに毎年参加、研究発表(1回) ・国際会議に参加・講演(1回) ・指定された大学院科目の履修 ・全体セミナーに毎年出席、研究発表(1回) ・メンターとの面談他 	
対象 研究科	全研究科・全専攻	工学研究科 (電気電子系、電子物理系、機械系、 物質化学生命系)、 理学研究科 (物理学、化学、生物学、生物化学)、 農学研究科 (応用生物科学、生命機能科学) 医学研究科(基礎医科科学)	工学研究科 (電子物理系、物質化学生命系) 情報学研究科 (基幹情報学) 理学研究科 (数学、物理学、化学、生物学、 地球学、生物化学)

「次世代研究者挑戦的研究プログラム」 リゾーム型研究人材育成プログラム

両総合大学がこれまでに培ってきた資源を有機的に結合する研究・教育体制を構築し、都市課題の解決のみならず、未来社会の創造に資する広い視野をもつ人材を育成し、社会に輩出することを目的とする。

複雑な都市課題の解決や新たな社会の創造に貢献できる人材育成として、本プログラムでは、両大学が要するあらゆる研究科の後期課程に進学する資質と能力を有し、自らが遂行してきた主たる専門知に加えて、異なる研究分野の専門知を積極的に取り入れて未来社会の創造に貢献しようとする強い意志と研究ビジョンを有する学生に対して、(1)専門知の有機的結合,(2)国際的な視野の獲得、(3)新たな研究分野人材ネットワークの形成、(4)積極的な社会貢献、などに対する支援を行う。

対象研究科:全研究科

科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業

「次世代研究者挑戦的研究プログラム」 リゾーム型研究人材育成プログラム

学生の責務

- ・大学院共通教育科目から一定数の単位取得
- ・研究目標に対する達成評価および進捗報告

その他、各プログラムで個別の責務がある。

- ・長期インターンシップ
- ・海外留学
- ・国内外の副指導教員の設定

博士課程教育リーディングプログラム 「システム発想型学際科学リーダー養成学位プログラム」



産業界が競争力を高め、イノベーションにより持続型社会を実現するために、**グローバル リーダーシップを発揮できる博士研究人材**が強く求めらており、中でも特定分野にとらわれることなく、社会科学的視点から見出されるニーズをも包括できる**学際的、分野横断的 戦略を想起できる能力の重要性**がますます高まってきている。

本リーディング大学院プログラムでは、複数の分野を広く俯瞰する学際発想力と、分野内の階層を深く統合する階層融合力を併せ持って、新しい価値創造(イノベーション)につながる研究戦略を想起できる「システム発想型学際科学リーダー」の養成を目指します。

期間:博士前期課程・博士後期課程の一貫教育

対象研究科:工学研究科、情報学研究科、理学研究科、農学研究科、現代システム科学研究科 リハビリテーション学研究科、生活科学研究科

⇒【第二部】対象者なのでご参加ください(B4、M1)

各種支援プログラム一覧

	フェローシップ事業(3プロ グラム)	次世代研究者挑戦的研究プロ グラム	日本学術振興会 特別研究員事業
目的	研究 力向上 経済的支援	研究 力向上 経済的支援	研究 支援
支援期間	3年制博士後期課程 D1~D3 4年制博士課程 D2~D4 最長3年かつ標準修業年限内	3年制博士後期課程 D1~D3 4年制博士課程 D1~D4 標準修業年限内(3年制:最長 3年、4年生:最長4年)	博士後期課程 (3または2年間)
研究専念支 援金	年間200万円	年間200万円	年間240万円
研究費	年間30万円	年間20-79万円	年間約100万円
責務	 ・大学院共通教育科目から一定数の単位取得 ・長期インターンシップへの参加・要求されたスキル項目に対するポートア目標に対するで理・研究目標および進捗報告(年2回) 	・大学院共通教育科 目から一定数の単 位取得 ・副指導教員の設定 ・海外留学の実施 ・研究目標に対する 達成評価および進 捗報告	・採択された研究 テーマの推進とそ の成果

博士課程教育 リーディングプログラム

教育・人材育成 (学位プログラム)

博士前期・後期課程 (5年間)

年間20-40万円

- ・5年間で 14単位以上 (必修10単位を含 む)
- ・学位プログラム

各種プログラムの併修について

	フェローシップ 事業 3プログラム	リゾーム型 人材育成	学術振興会特 別研究員	リーディン グプログラ ム
フェローシップ 事業 3プログラム		×	×	
リゾーム型 人材育成	×		×	
学術振興会 特別研究員	×	×		
リーディング プログラム				

選考時期

研究力支援プログラム

科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業

- ①「スマート社会を牽引する共創型X-Care課題解決アーキテクト養成」
- ②「マテリアルイノベーションを通した国際的博士人材育成拠点の形成」
- ③「南部・アインシュタイン フェローシップ」

次世代研究者挑戦的研究プログラム

④「リゾーム型研究人材育成プログラム」

年に2回の選抜試験 8月、2月頃を予定

- *4つのプログラムは併願可能
- *詳細は決定次第、公表。

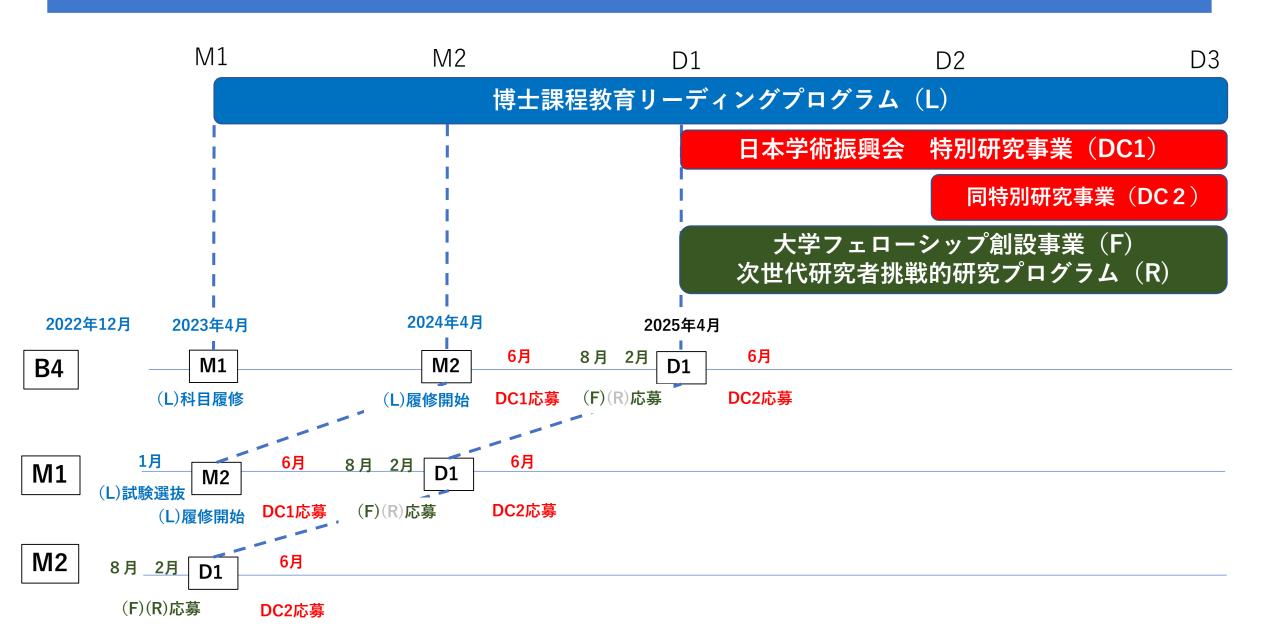
教育プログラム

博士課程教育リーディングプログラム

「システム発想型学際科学リーダー養成学位プログラム

- ①科目履修選抜 該当年次(M1)に指定科目 を受講
 - ⇒成績に応じて選抜(12月)
- ②試験選抜(M1対象):1月

選考におけるタイムチャート



事前質問

やむを得ない理由による休学・留年などによって支援の対象外になることはありませんか?

- ・出産・育児・傷病等の理由で研究の継続が困難になった場合には、個別の事情に応じて支援期間の中断・延長等を判断します。このような状況になったら、ご相談ください。なお、本プログラムは経済的な理由による研究活動の停滞がないようにとの趣旨で支援を行っていることを、十分に理解ください。
- ・支援期間は標準修了年限内が対象です。

研究費の支援に関して、フィールドワークの旅費の支援などはありますか?

- ・支援の対象です。 ただし、この事業の原資が血税であることを十分に理解したうえで有効に活用してください。
- ・生活費相当額の奨励費については使用用途を問うことはありません。
- ・個人研究費は,すべて使途を明確にしたうえで使用が許可されます.

その他個別相談は、下記の方法で受け付けます。

- ①アンケートに書き込む
- ②下記までメール

gr-idec-sims@omu.ac.jp

後日、回答を行います。

Release an English document later. Accept a English question by e-mail.

主催・問い合わせ先

大阪府立大学 高度人材育成推進センター (中百舌鳥C A 6 棟 3 階 3 1 2 室)

E-mail: gr-idec-sims@omu.ac.jp

TEL: 072-254-7567